

コンゴ(民)月例報告  
政治関連  
2016年4月

**主な出来事**

- AU が政治対話の調停者として任命したコジョ氏に対し、野党 UDPS は憲法期限に則った大統領選挙の実施を条件に賛成、G7はカビラ大統領の意のままに行われる場合はノー、野党連合ダイナミックは政治対話への不参加を再表明した。
- 24日、モイズ・カトゥンビ前カタンガ州知事が呼びかけたルブンバシ市での平和集会に参集した市民に、警察が実弾と催涙ガス弾を発砲、カトゥンビ氏の側近を含む数名を逮捕した。
- カビラ大統領は COP21 の署名式のためニューヨークを訪問、ケリー米務長官、潘国連事務総長らと会談を行った。
- 北キブ州マシシ地区で、州政府がいくつかの国内避難民(IDP)キャンプを閉鎖、36000名のIDPが、数キロ離れた近隣の村へばらばらに緊急避難を強いられている。
- 「パナマ文書」にカビラ大統領の双子の姉であるジャネット・カビラ国民議会議員の名前。
- マケイン米上院議員は駐米コンゴ(民)大使に宛てて書簡を発出、憲法の枠内における自由で公正な選挙と、民主的な政権委譲をカビラ大統領に求めた。これに対しメンデ・メディア大臣兼政府報道官は、非難ではなく、資金面において選挙プロセスを援助することを米に求めた。
- コンゴ(民)の国民的歌手パパ・ウエンバ氏が、アビジャンでのステージ中に突然倒れ、その後死亡が伝えられた。政府は、同氏への「グラン・オフィシエ章」の授与を決定した。

**1. 内政**

**(1) 政治対話の動向**

**ア AU がコジョ前トーゴ首相を政治対話の調停者として任命**

- ・6日、ズマ・アフリカ連合(AU)委員長は、エデム・コジョ(Edem Kodjo、前トーゴ首相、前 AU 事務局長)をコンゴ(民)における政治対話の調停者に任命したとするプレス・リリースを発表した。
- ・11日、コジョ氏は任命後初の記者会見を行い、カビラ大統領が昨年からの提唱している政治対話を円滑に開始するための準備委員会の設置に取りかかること、調停者として、憲法の範囲外となる取組を行うことはあり得ない等語った。

**イ コジョ氏の動向**

- ・15日、コジョ氏は16日に行われたサス・ングソ・コンゴ(共)大統領の就任式のためコンゴ(共)を訪れた。「サ」大統領との会談も行われた模様(15日付 ACP(ウェブ))。
- ・18日、コジョ氏はモイズ・カトゥンビ前カタンガ州知事との会談を行うため、ルブンバシ市に向けて出発する予定であったが、政府によって中止された(19日付 Forum des As、20日付 Le Potentiel 紙等)。

**ウ 政治対話の準備**

- ・政治対話準備委員会のメンバーは、MP12名、野党12名、市民社会6名から構成される予定(15日付 ACP(ウェブ))

**(2) 選挙の動向**

**ア チバンダ外相が選挙実施時期に関する国連と野党からの圧力を無責任と批判**

・8日、チバンダ外相は大統領選挙の憲法規定期限内における実施に関する国連(安保理決議第2277号で言及)と野党からの圧力を無責任と批判、今年11月に大統領選挙と国民議会議員選挙を行う場合、大きな混乱を招く可能性があると言った(8日付 AFP)。

#### イ 大統領任期をめぐる憲法解釈に関する与野党の動向

・18日、大統領多数派(MP)議員約40名が、大統領任期等を定めた憲法第70条等の解釈に関し、憲法裁判所に請願書(約285名が署名)を提出した。次期大統領が選出されるまで、カビラ大統領が政権に居残るための認証を得るのが目的。  
・野党はこれに対し、MPの解釈について根拠がないとし、カビラ大統領の政権居残り工作であると非難した。

#### (3)独立国家選挙委員会(CENI)が選挙人登録カード改正を7月に開始予定

・13日、CENIのバセングジ副委員長は、選挙人登録カード改正の作業を7月に開始すると発表した。また、この作業を担当する10万人の係員がまもなく採用される予定(14日付 Radio Okapi)。

#### (4)野党の動向

##### ア RFIによるモイズ・カトゥンビ前カタンガ州知事へのインタビュー

・8日、RFIはモイズ・カトゥンビ前カタンガ州知事へのインタビュー番組(約5分)を放送、カトゥンビ氏は、G7による大統領統一候補としての立候補要請に近いうちに回答するとし、野党による大統領統一候補は遅くとも2~3週間以内に決定されると語った。

##### イ コジョ氏の政治対話調停者任命に対する野党の反応

・8日、チセケディUDPS党首は、政治対話準備委員会におけるコジョ氏とUDPS間の正式窓口を、3名の党員(マブング事務局長、チバラ事務局長次長、フェリックス・チセケディ対外関係部長)に委任、また、10日には同党首名でコジョ氏に対し、今月24日までに、憲法期限に則った大統領選挙の実施を確実にするよう求めるコミュニケを発表した。  
・11日、G7は、憲法を尊重した選挙のための政治対話には賛成であるが、カビラ大統領の意のままに行われる場合はノーであるとの反応を発表した。  
・12日、野党連合ダイナミックは、AUが任命した政治対話調停者を認めず、政治対話には参加しないと繰り返した。

##### ウ ルブンバシ市で、カビラ大統領3選等への反対集会在警察によって排除される

・20日朝、ルブンバシ市で、カビラ大統領の3選、大統領選挙の遅延等に異を唱えるべく、野党政党UNAPEC(キユング党首、G7の構成政党のひとつ)のルブンバシ事務所前に、若者を中心とする約5000人の民衆が集結し、警察が催涙弾を用いて排除した。

##### エ 複数政党制の導入記念日にキンシャサ市とルブンバシ市で野党が政治集会を開催

・24日、モイズ・カトゥンビ前カタンガ州知事が呼びかけたルブンバシ市ケニア地区での平和集会に参集するため、カトゥンビ氏を先頭に、数百人の市民がケニア地区に向けて行進、警察が実弾による威嚇射撃に加え、催涙ガス弾の発射によって群衆を散乱させ、平和集会の開催を阻止した。また、カトゥンビ氏の側近を含む数名を逮捕、この中には米国籍者も1名含まれていた。  
・野党連合ダイナミックは、4月24日(日)昼過ぎから、キンシャサ市のBoulevard Triomphal(国会議事堂前にある独立記念式典のための大通り)で政治集会を開催した。集会には2000人を超える市民が集結、大きな混乱もなく夕方には終了した。  
・UDPSは23日、キンシャサ市リメテ地区にある同党本部で集会を行い、マブング事務局長が、憲法を遵守した上での政治対話への参加を呼びかける旨の、チセケディ党首によるメッセージを代読、同党首は、政治対話に参加するため、近々、キンシャサに戻ることを宣言した。

## オ UNADEF ルブンバシ事務所が放火される

・26日未明、UNADEF(ムワンド党首、G7 構成政党のひとつ)ルブンバシ事務所が放火され全焼した。何者かがガラス窓を割り、灯油をまいて火をつけたもの。

## 2. 外交

### (1)カビラ大統領が COP21 の署名式のためニューヨークを訪問

・21日、カビラ大統領は COP21 の署名式のためニューヨークの国連本部を訪れた。発展途上国グループとして22日に署名を行う。  
・22日、カビラ大統領はケリー米國務長官と会談。ケリー國務長官は、憲法を遵守した選挙の実施を求めた。  
・23日、カビラ大統領は潘国連事務総長とバイ会談を行い、潘事務総長は「カ」大統領に対し、憲法期限内の大統領選挙実施に向け、政治的緊張を緩和するための努力を求めた。

## 3. 東部及び大湖地域情勢

### (1)MONUSCO がタンザニア部隊を性的搾取の疑いで調査

・2日、MONUSCO は、国連平和維持要員による性的搾取の疑いで、東部に展開する介入旅団(Force Intervention Brigade)のタンザニア部隊への調査を開始予定と発表した。MONUSCO によると、3月23日の事件発覚直後、事前調査のため、現場に調査ミッションを派遣したところ、金銭絡み及び未成年との性的関係との関連性が示された(2日付 AFP)。  
・16日、MONUSCO とタンザニアは、右に関する合同調査を開始した(16日付 AFP)。

### (2)ペリエロ米大湖地域特使の動向

・6日、ペリエロ特使はブリュッセルでチセケディUDPS 党首と会談、政治対話や選挙プロセスの停滞について話し合った。  
・8日、仏ラジオ国際放送局(RFI)は、ペリエロ特使へのインタビュー番組を放送、同特使は、コンゴ(民)政府が大統領選挙を11月に実施することは可能であると述べた。  
・12日、ペリエロ特使はケンゴ上院議長と面会し、選挙と政治対話について意見交換を行った。  
・12日、ペリエロ特使はチバンダ外相と面会し、コンゴ(民)東部とブルンジの状況に関し意見交換を行った。  
・17日、ペリエロ特使は3日間のルブンバシ滞在を終え、憲法により年内の選挙実施は明白であり、2016年を選挙と憲法にとり歴史的な年とするために協力したいと述べ、また、カビラ大統領に政治対話の実施に向けた環境整備を求めた(19日 Radio Okapi(放送))。

### (3)北キブ州マシシで多くの IDP キャンプを閉鎖、IDP は近隣の村に緊急避難

・北キブ州マシシ地区で、州政府がムパチ(Mpati)、ニヤンゲ(Nyange)等の多くの国内避難民(IDP)キャンプを閉鎖、移動を余儀なくされた36000名の IDP が、数キロ離れた近隣の村へばらばらに緊急避難している(14日付 Le Potentiel 紙)。

### (4)南キブ州ブカブで走行中の車両が爆発、3名死亡

・15日、南キブ州ブカブで、走向中の車両が爆発、乗っていた3名全員の死亡が確認された。ラジオ・オカピは目撃者談として、何者かが手榴弾を走行中の車に投げたと伝えた。  
・ブカブ市民の不安に対し、カナカング南キブ州警察長官は19日、今回の事件はテロによるものではないと宣言、市民に平静を呼びかけた。

### (5)ルワンダのキガリで警察官詰所が襲撃され、ルワンダ国軍はコンゴ(民)の仕業と非難

・15-16日、ルワンダのルバヴ(Rubavu)郡で警察官詰所が襲撃され、ルワンダ国軍報道官は、コンゴ(民)から越境した FDLR による仕業とし、コンゴ(民)領内での捜査権を主張した。ルワンダ国

軍は3月24日にも、同地域でコンゴ(民)国軍の制服を着た武装集団が襲撃を行ったと非難していた。

・17日、メンデ・メディア大臣兼政府報道官はこれに対し、現時点では何も証明されておらず、大湖地域国際会議(ICGLR/CIRGL)による軍事合同委員会の調査を待つべきであると反論した(17日付 Politico(ウェブ))。

・19日、FARDC 報道官は、100名規模のルワンダ軍兵士がコンゴ(民)領内の北キブ州ニーラゴング地区に侵入し、FDLRの捜索活動を行っていたと報道した(20日付 Radio Okapi)。

#### **(6)コルウェジ市(旧カタンガ州の一部)で警察と住民の緊張が高まる**

・16日、コルウェジ市で、警察の制服を着用した何者かが深夜にバイクを盗もうとし民家に侵入、抵抗した住民2名が射殺される事件があり、17日には、遺体の確認に集まった住民に向けて、警官が威嚇射撃をし、数名の死者が発生した模様。これによりコルウェジ市では、警察と住民の緊張が高まっている(17日付 RFI)。

#### **(7)南スーダンの地方政府役人がコンゴ(民)領内に侵入し同国の国旗を掲げる**

・18日、南スーダンのモロブ(Morobu)地域長がコンゴ(民)東部イツリ州(旧オリエンタル州の一部)に約十人の仲間とともに侵入、アル(Aru)地区カクワにおいて南スーダンの国旗を掲揚、同地区オカベ村長と現場にいた警察官を脅迫、村民に村からの立ち退きを強要した。

#### **(8)イツリ州で FARDC が武装勢力と交戦、12名死亡**

・19日、イツリ州ベニ近郊で、FARDC とマイマイ・シンバ(マイマイは自警団的性格をもつ武装勢力)が交戦、FARDC 兵士1名が死亡、3名が負傷、武装勢力側は11名が死亡した。

#### **(9)コンゴ(民)-ウガンダ間の国境画定作業が開始**

・27日、イツリ州アル(Aru)と北キブ州ブナガナ(Bunagana)間で、コンゴ(民)とウガンダ間で不明瞭となっている国境線の合同画定作業が開始された。両国による国境紛争の収束が目的。

### **4. その他**

#### **(1)国際社会による選挙支援の動向**

・オランダは、一連の選挙プロセスにおける基本的人権と自由の侵害防止と削減のため、国連人権合同事務所(UNJHRO(英)、BCNUDH(仏))によるプロジェクトに50万ユーロを支出する(13日付 Le Potentiel)。

#### **(2)「パナマ文書」にジャネット・カピラの名が記載と報道**

・4日、RFI は、「パナマ文書」にはアフリカ諸国の数十名の大臣や政府高官の名前も示されており、この中に、コンゴ(民)大統領の双子の姉(注:とされている)であるジャネット・カピラ国民議会議員の名前があると報じた。

#### **(3)キンシャサの軍事裁判所が MINUSCA 要員だった FARDC 兵に対する性的暴力の公判を開始**

・4日、キンシャサの軍事裁判所は、3名の FARDC 下士官が MINUSCA 要員として派遣された中央アフリカで犯したとされる性的暴力(未成年に対するものを含む)に関する第一回公判を開始した。同公判では21名の FARDC 要員への裁判が行われる(4日付 AFP)。

#### **(4)列国議会同盟(UIP)がコンゴ(民)を議員に対する自由と人権の侵害が最も高い国と判定**

・列国議会同盟(UIP)は、コンゴ(民)における議員と旧議員に対する自由と基本的人権の侵害事案が34件と、事案数の最も高い国と発表した(7日付 RFI ウェブ)。

#### **(5) Jason Stearns 氏への国外退去措置**

・8日、コンゴ(民)当局は、ニューヨーク大学国際協力センター(CIC)による研究プロジェクト「Groupe d' Etude sur le Congo(コンゴ(民)に関する研究グループ、GEC)」の Jason Stearns ディレクターを、7日に国外退去措置にしたと認めた。GEC は北キブ州ベニ近郊における住民虐殺に関する報告書で、虐殺の首謀者を FARDC の一部構成員、RCD-K/ML の旧メンバーや ADF メンバーによる問題と結論しており、ADF によるものと結論したコンゴ(民)当局と MONUSCO による調査報告書に問題を呈した。

#### **(6) マケイン米上院議員が駐米コンゴ(民)大使宛書簡を发出、コンゴ(民)政府も返答書簡で対応**

・15日、ジョン・マケイン米上院議員はバルムエネ(Francois Balumuene)駐米コンゴ(民)大使に宛て書簡を发出、憲法の枠内における自由で公正な選挙と、民主的な政権委譲をカビラ大統領に求めた。

・19日、右書簡に関し、メンデ・メディア大臣兼政府報道官が返答書簡にて反応、米に対し、非難ではなく、資金援助において選挙プロセスに協力することを求めた。

#### **(7) 国民的歌手のパパ・ウエンバがアビジャンで客死**

・24日早朝、コンゴ(民)の国民的歌手で、ルンバの王様と呼ばれているパパ・ウエンバ(本名: Jules Shungu Wembadio Pene Kikumba)が、アビジャンで開催されていた FEMUA 音楽祭のステージで演奏中に突然倒れ、その後死亡が伝えられた。66歳だった。

・28日、同氏の遺体は、コンゴ(民)政府がチャーターした Congo Airways 機でキンシャサに移送され、マタタ首相、ミナク国民議会議長らが出迎えた。5月2日、3日には国会議事堂にて弔問が行われ、4日にキンシャサ郊外 Nsele 地区に埋葬される。

・30日、政府は、パパ・ウエンバ氏への「グラン・オフィシエ章」の授与を決定した。

#### **(8) 野党に対する一連の威嚇行為に英、仏、米がコミュニケを发出**

・26日、仏は、最近のルブンバシ市とキンシャサ市における事件からも明らかな、コンゴ(民)における政治議論への束縛を危惧するとのコミュニケを、外務省 HP に掲載した。

・26日、英は、ドラキア英大湖地域特使は、ルブンバシ市とキンシャサ市などで先週末に発生した、政治活動家に対する逮捕、威嚇行為等に、シディク SRSG と同様の懸念を抱いている。国民は政治的意見の自由な表現を憲法で保障されており、コンゴ(民)政府に対し、憲法で保障された権利を尊重するよう求めるとのコミュニケを、外務・英連邦省 HP に掲載した。

・28日、米は、コンゴ(民)政府に平和集会や表現の自由を含む国民の権利尊重を求め、憲法に基づく平和的かつ信頼性のある選挙サイクルに向けた支援準備がある旨の声明を発表した。